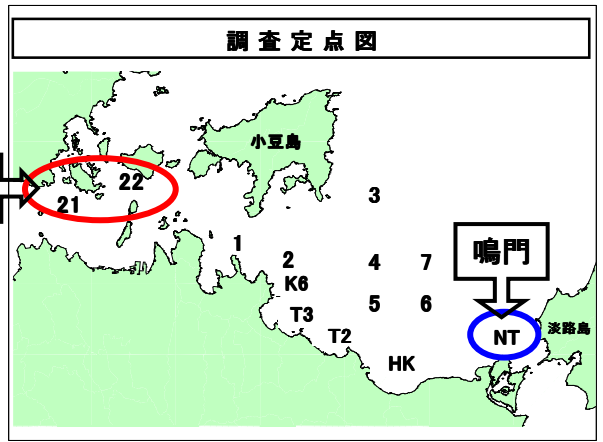


カタクチイワシ卵稚仔出現状況

(2009. 8- 2)

香川県水産試験場 宮川

TEL: 087-843-6511



調査方法

調査日: 8月18日

調査方法: 丸特ネットによる鉛直曳

調査定点: 播磨灘11定点+備讃瀬戸2点+鳴門1点(中旬のみ)

(調査定点図参照)

【カタクチ卵】 定点別出現数

年 定点	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	HK	T2	T3	K6	21	22	NT	11点平均値	14点平均値
2007.8.14	1	0	1	0	1	0	12	0	3	0	1				1.7	1.7
2008.8.20	0	0	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0.5	0.6
2009.8.21	0	0	0	0	2	38	0	17	0	13	0	0	0	21	6.4	6.5
2010.8.18	0	0	26	31	2	0	2	0	0	0	0	0	0	72	5.5	9.5

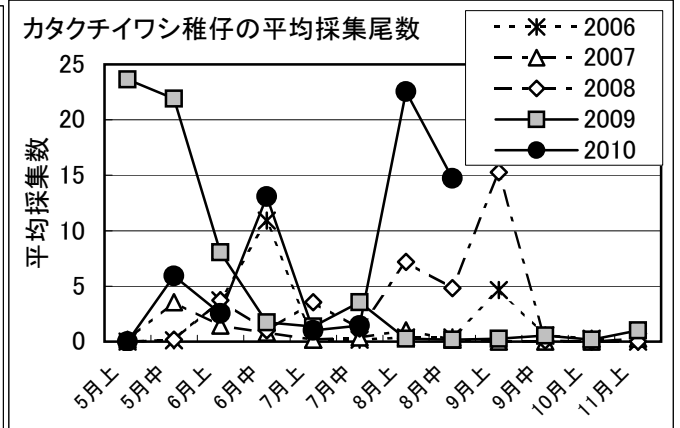
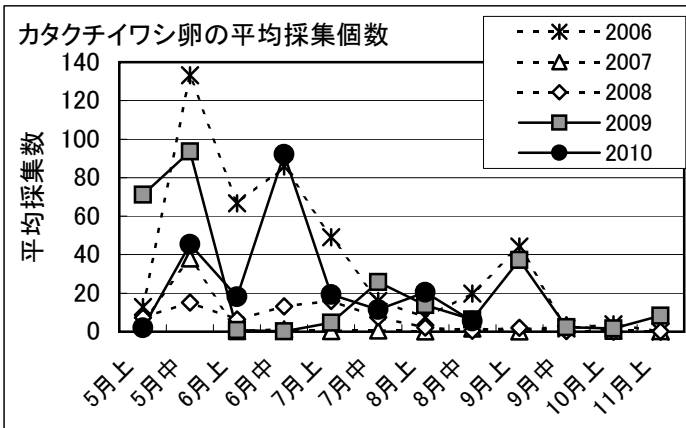
【カタクチ稚仔】 定点別出現尾数

年 定点	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	HK	T2	T3	K6	21	22	NT	11点平均値	14点平均値
2007.8.14	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0				0.2	0.2
2008.8.20	0	1	0	8	2	13	27	2	0	0	0	0	5	9	4.8	4.8
2009.8.21	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0.2	0.1
2010.8.18	0	0	32	49	18	12	21	24	3	1	2	0	0	37	14.7	14.2

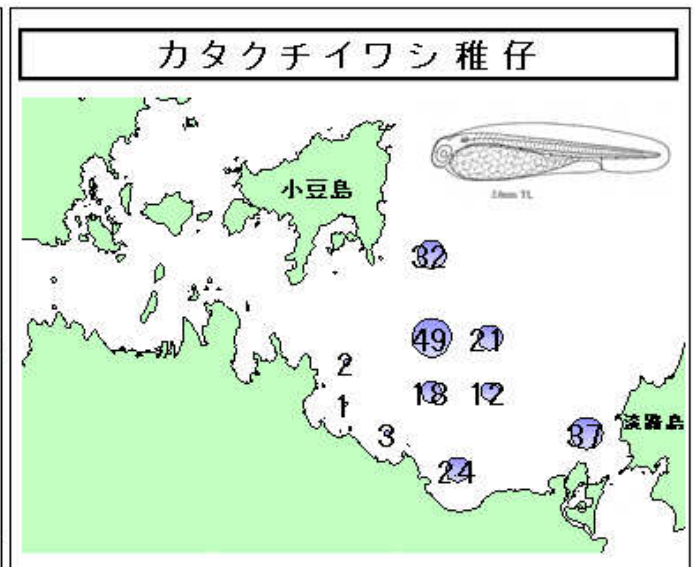
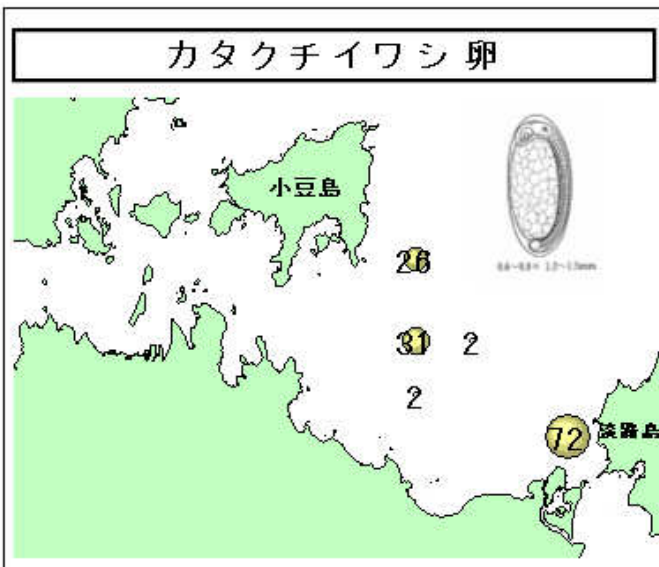
* 表中の「-」は未測定を表す。

* 11点平均値: 播磨灘11定点の平均値を表す(備讃瀬戸および鳴門を除く)。

* 14点平均値: 播磨灘11点+備讃瀬戸2点+鳴門1点の平均値を表す。



* グラフの値は播磨灘11定点における平均値を表す。



播磨灘11定点における卵の平均出現数は5.5個となり、昨年同時期をやや下回った。卵は沖合いと鳴門北での出現数が多かった。

一方、稚仔の出現は平均で約 14.7尾となり、昨年同時期を大きく上回った。稚仔の出現は引田地先と沖合いで多かった。

引田沖に設置した水温ブイ(午前9時)によると、6月以降の水温はやや低めからやや高めの間で推移し、8月はやや低めからやや高めに推移している。

餌料生物として重要なかいあし類は、前回より大きく減少し、11点の平均は0.04mL/曳網と前回の2%であった。

一方、カタクチイワシはほとんど見られず、かいあし類と同じ動物プランクトンのミジンコ類が沿岸部で見られた。

なお、カタクチイワシ成魚であれば利用可能な珪藻類が、灘部で増殖していた。

【参考】

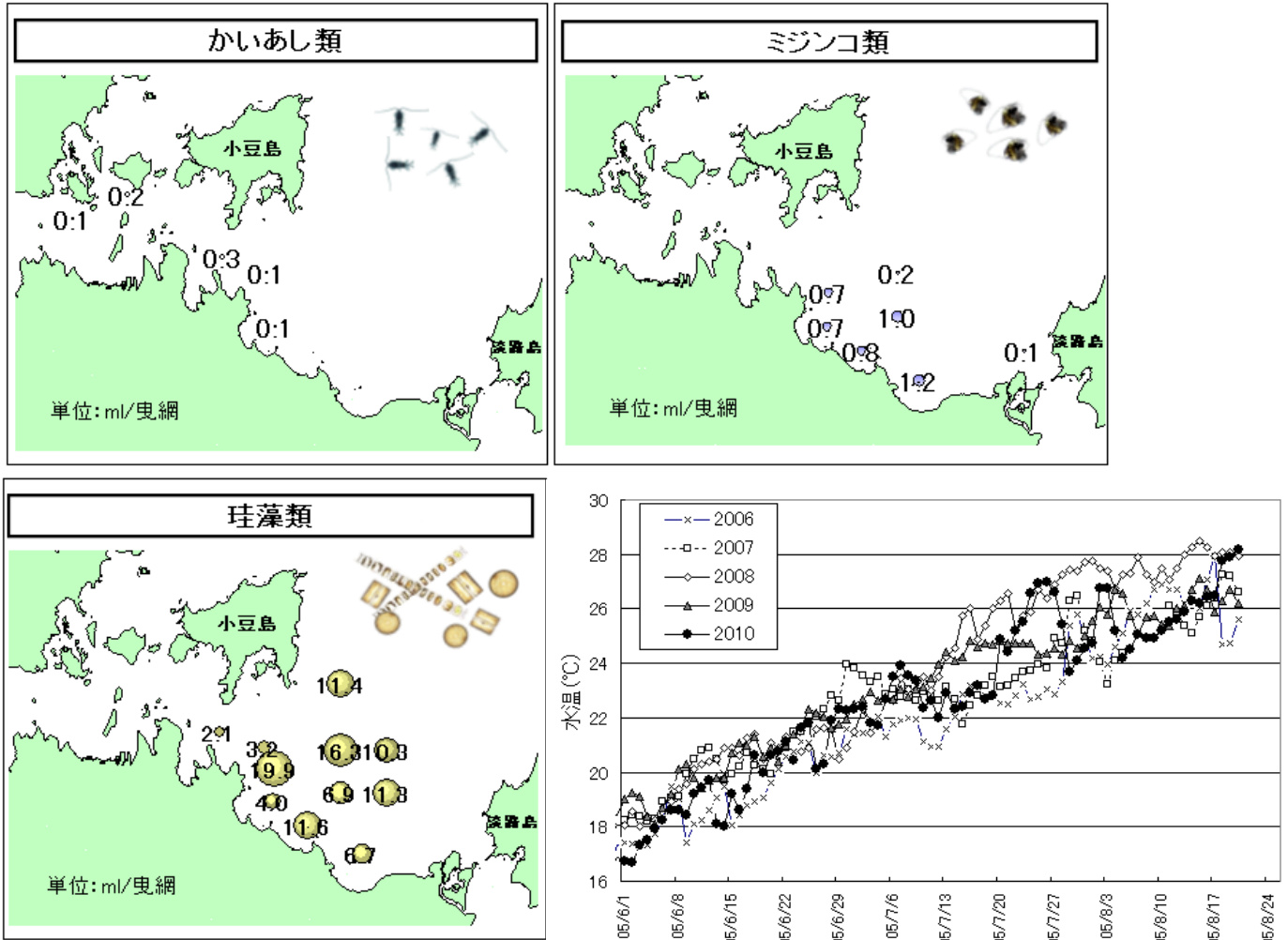


図 引田沖ブイロボットデータ

※カタクチイワシ卵稚仔情報は、「水産試験場ホームページ」の「情報提供」の「カタクチイワシ卵稚仔速報」でも公開しています。

<http://www.pref.kagawa.jp/suisanshiken/>